

☆真宗大谷派 永寶山 浄敬寺ホームページ

<https://jyokyoji-kashiwazaki.com/>

あたたかいメッセージを、ありがとうございます！



☆Instagram



← 夏休みお楽しみ会



夏の法話会 ↓



↓ 良寛記念館朗読会



発行日 令和五年八月十三日 第四十一号

浄敬寺だより



【法語】

弥陀の五劫思惟の願を
よくよく案ずれば
ひとえに親鸞一人が
ためなりけり



【意識・解説】

『歎異抄』後序 真宗聖典六四〇項

阿弥陀如来は誰一人漏らすことなく衆生を救済するために
気の遠くなるような長い時間をかけて深く考えて仏様になられ
ました。その願いをよくよく案じてみたならば、確かなものを
握ったような気になっても、結局は自分の思いの中で握りしめ
ているに過ぎない私、本当に真実が分らず右往左往するよう
な私、そういう私・親鸞を救おうという願いでありました。

人と生まれた以上兼ね備えた業があります。

他のいのちを奪って食べながら自らのいのちを繋いでいる
ことも、複雑な関係性の中でその時々には仮面をつけて生き
ていることも、損得感情を離れられないことも、業縁の存
在である私の姿です。

そんな私の姿を教え、それでも助けようという如来の願い
は、私個人の思いや計らいを超えています。そのことを知
らされた親鸞聖人の感動の言葉です。

☆巻頭法話『歴史から思うこと』☆

出来るだけ口に出すまいと思ってもついつい出てしまう「暑い」の言葉、既に暦の上では秋になっていきますので皆様には心より残暑お見舞いを申し上げます。

さて、半年以上も前になりますが今年の正月一十三日（金）にBSNテレビの新潟名刹紀行という番組で浄敬寺を紹介していただきました。住職の私が出演し寺の由緒などを説明いたしました。ご覧になった方もおられるかも知れませんが、初めてのことで大変緊張してしまいました。その中でお話をさせていただいた浄敬寺の歴史について、その概略を以下に改めて書かせていただきます。

「明応年中の頃 当寺開基教円坊が加州石川郡宮腰に庵を結び、そこに居住していた。教円坊は蓮如上人に帰依して弟子となり、明応三年甲寅年五月七日、釋教信と法名を改め、御本尊が下された。教信以降、数代その地に留まったが、数代後道慶という住職が宮腰より地縁の者があつて現在の地に移り、寛永二年この地に小庵を結んだ。その後、数代所持していた御本尊始め宝物等が焼失し道慶実子龍嘉の代、寛永七年にご本尊等が裏書浄敬寺龍嘉として下された。」

以上が説明の概略ですが、明応年中は一四九二

一五〇一年です。浄敬寺は今から五百三十年ほど前に石川県の宮腰（みやのこし）、現在の金沢市郊外に教円坊という僧が庵を結んだのが開基になります。その後、教円坊は蓮如上人に帰依し、名前を釋教信と改め、御本尊等も下されました。数代後、道慶という住職が縁あつて今の柏崎のこの地に寛永二年（一六二五年）移り庵を結んだとありますので、この柏崎に移ってから三百九十八年ということになります。その後にご本尊等が焼失し、道慶の子龍嘉がご本山に嘆願して、寛永七年に改めてご本尊等が下されました。このご本尊の裏書は現在も寺に現存しておりますので、現在本堂に安置してあるご本尊は寛永七年にご本山より下されたご本尊ということになります。

この度のテレビ出演を通して、私も改めて浄敬寺の歴史について様々考えさせていただきました。言い伝えによれば、石川県からこの地に移り住んだ時に一緒に移って来られたご門徒もおられると聞いております。浄敬寺はその後、江戸時代の末期、慶応年間に火事で焼失しましたがご本山等は守り抜き、その後は平成三年に今の御本堂が再建されるまで庫裡兼仮本堂の形を取りながら歴代住職、ご門徒が力を合わせて浄敬寺を守つてこられました。「先に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は先を訪え」と

いうお言葉がありますが、歴史を学ぶということはその歴史を通して先人の願いをいただいていくことに他なりません。現代の社会状況は特に新型コロナの蔓延以降一変し、人と人との関係性も希薄になってきました。しかし今私がここに生きているということの意味は、親はもちろん、その先々までさかのぼり、多くの先人の願いの中にあるということも間違いないことではないでしょうか。わずか四年ほどのコロナ禍によって大切な多くのものを失ってしまったというのはいかにも残念でなりません。そのようなことを考えさせられたこの度のテレビ出演でもありました。

合掌

(住職)



☆庫裡便り

浄敬寺の日々の出来事から
坊守の所感をお伝えします。



◎慶讃法要団体参拝

きょうさんほうよう

四月の本山慶讃法要には、浄敬寺は十組の団体(バス二台)にご門徒十一名で参加しました。一日目は宇治平等院の観光後、琵琶湖温泉で宿泊。二日目は本山慶讃法要の参詣。宗務総長の挨拶、法話、そして厳かな勤行があり、感動いたしました。その後、南

禅寺、將軍塚青龍殿を観光し、長良川温泉で宿泊。三日目は郡上八幡、白川郷等を観光して帰泊しました。三日目はあいにくの雨の中でしたが、信号機の無い歴史ある街並みの郡上八幡を散策しました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。今頃は郡上踊りで山あいの綺麗な水の流れるあの町に沢山の人が集まっています。七頁に写真を掲載しております。ご覧ください。

◎慶讃法要と古希の祝いと

十組の団体参拝に先立ち、四月八日に孫達が稚児行列に参加することとなり、参加の四人(弘信、優人、秋田の孫二人)の付き添いも兼ねて一行十三名で慶讃法要に参詣しました。それに合わせて、当院、准坊守の若手二人が、住職と私の古希の祝いを計画してくれました。お陰で思い出深い慶讃法要となりました。

◎お斎を再開できました

春彼岸、お引上げ、盆参会と準備も念入りにお斎を再開しました。前日、当日とお手伝いいただく方、お斎に着いてくださる方々のお陰で再開できましたことに改めて感謝です。長い間踏襲されてきたお斎の意味を考えさせられたことです。

◎二女千晶の演劇情報

・十月二十二日～二十八日 東京六本木 俳優座劇場
アガサ・クリスティ原作 「検察側の証人」出演

・十一月二十五日(土)

柏崎小学校 百五十周年記念式典 朗読劇出演



☆二〇二三年前半を振り返って

◎良寛記念館の朗読会へ（三月十九日）

当院の勤務する良寛記念館にて、住職・坊守の二女・千晶と荒井和真氏による朗読会が企画され、自家用車乗り合わせにて出雲崎町良寛記念館へ出掛けてきました。新見南吉作の『手鞠と鉢の子』の朗読を、荒井氏のギターの演奏とともに聞かせてもらいました。良寛さんの姿や情景が思い浮かぶような朗読会でした。

◎春彼岸（お中日・三月二十一日）法話 住職

新型コロナウイルス感染症の流行も収束しつつあるということ

ことで、手作りのおときを皆様に召し上がっていただくことができました。坊守が待ち遠しく楽しみにしていたおとき作り、生き生きと準備している姿が印象的でした。浄敬寺年中行事にはお申し込みは不要ですので、ぜひお参りください。



◎第十組同朋会報恩講（三月二十五日）

柏崎刈羽地区の寺院・門徒で一緒にお勤めするのが同朋会報恩講です。自肅期間を経て、四年振りに開催されました。

柏刈同朋の会は、浄敬寺門徒の渡辺正純氏に会長をお引き受けいただいております。久し振りの開催にご苦労もあったかと思いますが、丁寧に準備を進めていただき、無事にお勤めすることができました。組全体の行事ですが、浄敬寺の御門徒の皆様からたくさんご出席いただいたこともまた、大変有り難いことでした。

講師には大谷大学学長の一楽真先生をお迎えして、『南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう』の慶讃法要テーマを講題にお話いただき、役に立つか立たないか：そんなことでは済まされない「いのち」をたまわっていることを分かりや



すくお話いただきました。同朋会報恩講では、毎年合唱団員も募集しております。ぜひご参加、そしてお参りください。

◎報恩講お引上げ（五月十九日）・準備会（五月七日）

昨年からお引き上げ準備会にて、御門徒の皆様と仏具のお磨きを行っています。今年も有志の方々からお集まりいただき、子ども達も一緒に仏具を磨きました。現在の浄敬寺の報恩講は一座のお勤めですが、準備の段階から報恩講は始まっていると感じながらの作業でした。

報恩講当日は、お馴染みの今泉先生からご法話をいただき、皆様それぞれにこの一年を振り返りつつ、お念仏の教えを確かめることができたのではないのでしょうか。

勤行は市内法中御寺院方に出仕していただき、おときには、台所スタッフの方々のご協力で、旬の山菜を使った手作りのおときを召し上がっていただくことができました。



◎柏崎刈羽同朋の会協議会研修旅行（五月二十四日）

コロナ禍で数年間実施できなかった柏刈同朋会の研修旅行が今年は日帰りでしたが実施されました。明治時代の本山東本願寺の再建において大きな役割を果たした新潟市の木場教会を見学、また親鸞聖人の高弟無為信房が開基の水原無為信寺、越後七不思議伝説として伝わる逆さ竹の鳥屋野西方寺などを見学してきました。住職と坊守を合わせ、浄敬寺は六人の参加でした。今年御本山では慶讃法要も厳修されましたが、越後の国と宗祖親鸞聖人の深い御縁を改めて感じさせていただいた旅行でした。この旅行を企画された柏刈同朋会の渡辺正純会長に深く感謝申し上げます。今後は三年に一度研修旅行が企画されるそうですので、次の機会には是非多くの皆様にも参加いただければと願っています。

◎夏の法話会（七月二日）

『聖人の常の仰せには』 佐野 明弘師

私たちは普段、自分たちの思い通りにすることで、日々の生活と生涯が豊かになると思っているのではないだろうか、様々な例を挙げてお話くださいました。法話要旨です。



私たちは、普段の様々な境遇から「あんな風になりたい」と考える。でも、もし思い通りになったとしたら本当にそれが救いとなるのだろうか。老いて苦しい思いをしたくない、また残された人にも苦しい思いをさせたくない。その思いから、昨今、国によっては、自らの死を決めることを尊厳死として、「安楽死」が認められ始めている。また、子どもが生まれる前に先天的な疾患を知るために、胎内の羊水の染色体を検査することで、いのちを選別することに繋がっている。その選択は、特に母体を肉体的にも精神的にも追い詰める結果となっている。私たちの思いによる技術の発展は、結果的に私たちを苦しめることになっていくのではないだろうか。

そのように私たちは、私たちの思う自分になることで自分自身を受け止めたのである。しかし、それが出来ずに悩み、また思い通りになっても悩むのである。そんな私たちも「受け止める」と言われると、気を許せることがある。阿弥陀様はそんな私たちに「立派になったら救う」とは云わず、「そのままの姿で救う」と云うのである。しかし、私たちは、阿弥陀様の言葉を信じきれず、親鸞聖人もその一点に苦しみ悲しんだと云う。

「親鸞聖人が常に仰っていたこと」は、人の執着と愚かさは人それぞれだけれど、愚かさは一つであるということである。「愚者となりて往生す、迷いの身に帰ってお念仏するのである。」親鸞聖人ご自身もそのことは、先生であつた法然上人から教えられたと云う。

私たちの思いの中では抜け出せない。そんな私たちを愚かと指し示す「聴聞」を生活の中心とし、おいのちをいただきたい。何か分からなくても、これまで多くの人たちが称えてきたお念仏が自分に届いてふと、お念仏が自分からも出た時、それはそのお念仏の響きの中に受け止められていることである。

◎夏のおたのしみ会（八月六日）

四年振りに、夕方四時〜八時頃までの新型コロナウイルス流行前の形に戻してお楽しみ会でした。連日の暑さに加え、二日前に蜂の巣が見つかる（お盆前に駆除済み）というアクシデントもありましたが、クーラーのある本堂で遊び、庫裡でご飯をいただき、と、少々変更をしながら無事に開催することができました。勤行・住職からのお話・絵本・手話の歌・本堂でゲーム・夕ご飯・ミニコンサート・きもだめし・花火等を楽しみました。毎年参加してくださるお子さんの一年の成長に驚きと感動のある大事な浄敬寺の行事です。お誘い合わせてぜひご参加ください。

お楽しみ会スナップ



ありがとうございます

* 沢山のお野菜↓皆さんで夕ご飯にいただきました

* お菓子詰め合わせ↓きもだめし後のお土産に

* 台所スタッフ四名↓夕ご飯のカレーライス調理

* 中学生お手伝い数名↓受付・進行補助等



来年もお待ちしております！

☆二〇二三年後半の行事予定

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

*十三日・・・午前六時より 本堂にて勤行

九月九日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

九月二十～二十六日 秋彼岸

*お中日 二十三日（秋分の日）

午前十時半～法話 勤行おとぎ

十月十四日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月五～八日 三条別院報恩講

*五日（土）午前十一時より お待ち受け音楽法要

*団体参拝のご案内については、別途お知らせします

十一月十一日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月十三～十四日（月～火） 有縁講

十一月 しまい講 ↓ 休止予定

十二月十日（日） 年末法話会 午後一時半～四時

講師 田澤 一明 師

（新潟市明誓寺 御住職）

二〇二三年一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一～二日 年始参

*真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

定例法話会『歎異抄をよむ会』のご案内

・基本的に第二土曜日午前九時より

・内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め

（終了後、ささやかな茶話会あり）

・持ち物 赤本・念珠・『歎異抄』の冊子



*行事にご参加の際は

浄敬寺で開催の行事においては、申し込みは不要です。
当日の開始時間を目指してお越しください。

*感染症対策について

マスクの着用は任意とさせていただきます。
発熱のある方はお控えいただき、風邪等の諸症状のある方はマスク等のご配慮をお願いいたします。

☆宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年 慶讃法要についてご報告

二〇二三年三月～四月にかけて二期に渡り、祖親鸞聖人の「御誕生八五〇年」と「立教開宗」を慶び讃える法要が『慶讃法要』としてお勤まりになりました。

三条教区第十組（柏崎刈羽地区）では、法要に合わせて団体ツアーを組み、二十五日の午後に法要を参拝しました。記録写真を掲載いたしますのでご覧ください。

また、法要期間中、准坊守（晴香）は第一期法要中の三月二十九日～四月三日まで准堂衆（お勤めの僧侶）のお役目にて出仕し、三男・弘信と従姉弟たちは、四月八日の第一期御満座の庭義（お練り）にお稚児さんとして参堂列に混ざり、付き添いの親族一同もゆつくりと法要をお参りすることができました。それぞれに五十年に一度の法要に遇うことができました。



☆真宗門徒の豆知識

今年も『お盆』がやってきました。

お盆といえは、ご自宅のお内仏にお参り

されるだけでなく、

・里帰りしてお内仏にお参り

・親戚のお宅へご挨拶に行ってお内仏にお参り

そんな機会が多くあるのではないのでしょうか。『お参りの仕方』について解説します。

☆鑿（きん）・音木（おんぎ）等の鳴り物について

真宗大谷派における鳴り物は、全て勤行に使用されるものです。鑿（きん：場に依じて数種類あります）を打つのは、お勤めの始まりや区切りであり、音木（おんぎ：拍子木のようなもの）は読経の僧侶がタイミングを合わせるために用いられます。手を合わせるだけのお参りの際には、鑿（きん）やお鈴（りん）を鳴らす必要はありません。



☆合掌

合掌の姿勢は、体の中心のみぞおちのあたりで手を合わせ、肩に余計な力を入れずに、背筋を伸ばします。その際に目は閉じずに、御本尊を仰ぎ見て、「南無阿弥陀仏」と声に出します。



☆燃香

香炉に線香を焚く（燃香の）際は、自分から見て左から右へ燃えるように寝かせます。法要の場合には、参詣者全員が墨に香をくべる焼香を行います。線香は墨とお香が一緒になったものと考えていただけたらと思います。南無阿弥陀仏のはたらきは、色も形もないけれども、よい香りのように染みわたって広がっていくというこの象徴でもあります。

ちょっくら
解説



☆当院の仏教名言集 第三十四回 『学生』

がくしょう

例年のことですが、お盆が近づき子どもたちに夏休みの宿題の経過を聞くと、顔色が曇ります。子どもたちからは「時間がなかった」、「大変なんだ」と、それぞれ状況説明があります。結局、まだまだ終わりは遠いようです。そして、最終的に行き詰まると「何故、勉強をしなくてはならないのか？」と哲学的なことを話しだし、最後は母から「勉強は学生の本分である」と一喝されます。



そんな夏休みの宿題をしなくてはならない「学生（がくせい）」ですが、もともとはお寺で仏教の教えを学ぶ者として「学生（がくしょう）」と読みます。親鸞聖人が二十年間過ごした比叡山の僧侶は、学生と堂衆に分かれていました。親鸞聖人は、堂衆に属し、常行堂で不断念仏行を勤めていたそうです。当初、親鸞聖人は学生になることを希望していたそうですが、当時の比叡山の学生は位の高い公家出身の出家者が選ばれることが多かったため、堂衆に配属されたと云われています。

親鸞聖人は学生になれないことを悩みご苦労されながらも、法然上人という先生に出会い、お念仏の教えを教えていただいたのでした。

自動的に学生になった子どもたちは、その有り難さを理解するのは難しいようですが、長い休みならではの宿題や課題を通して、学ぶことへの意欲やその先にある何かを体得してもらいたいものです。

（当院）

☆編集を終えて：

今号は行事報告のページが膨らんでおります。新型感染症への心配も一段落。旅行や大人数の会の開催が可能となり、耐えた月日の分だけ喜びも大きく感じています。

夏の法話会には、佐野明弘先生からお越しいただきました。今年度四月より大谷専修学院という宗門の学校の院長に就任され、大変お忙しい中でスケジュールを組んでくださった貴重なご縁でした。私たちが普段は深く考えず、しかし、本当に身近で大切な問題を例に挙げながら、親鸞聖人が生涯の課題とされたことを丁寧にお話しいただきました。自分とは違う偉い人：ではない親鸞聖人の人間像が浮かび上がり、改めて身近に感じたことです。録音してありますので、都合がつかなかった方やもう一度お聞きになりたい方はお知らせください。毎月定例で開催している『歎異抄』をよむ会』の進度に合わせて、節目に佐野先生のお話をお聞かせいただいていたきましたので、これからも地道に『歎異抄』の言葉に触れていきたいと思っております。ぜひご参加いただけたら幸いです。

（晴香）

☆連絡先 浄敬寺

TEL:0257-22-2481

FAX:0257-22-2140

Mail: jyoukyouji222481@gmail.com

住職 tomi814@kisnet.or.jp

当院 minipapa@kisnet.or.jp

晴香 haru310@kisnet.or.jp



報恩講準備会ご参加の皆様
ありがとうございました

